

『新版 東洋医学概論』の変更

『新版 東洋医学概論』の第1版第5刷(2019年3月15日発行)から第1版第6刷(2020年3月15日発行)におきまして、以下のように変更いたしました。

『新版 東洋医学概論』第1版 第5刷～第6刷の訂正

(2020年6月22日)

頁	訂正箇所	訂正前	訂正後
17	「2) 標本」の「*」の2行目	～それに伴う関連臓腑経絡への実熱の波及に対する補瀉を	～それに伴う関連臓腑経絡への 寒熱 の波及に対する補瀉を
38	図2-1 人体の生体物質の関係	図の記述内容	<p>赤枠の箇所の変更。</p>
43	「a. 先天の気」の1行目	腎に貯蔵された先天の精から化生した気(原気)で、生命活動の原動力となる。	腎に貯蔵された先天の精から化生した 気 で、生命活動の原動力となる。
43	「C. 原気(元気)」の1行目	～原気はその源を先天の精とし、先天の気ともいわれ、三焦(組織・器官以外の領域・生体物質の通り道)を通して全身に分布する。人の成長や発育を促し、	～原気は 主として先天の精を源 とし、先天の気ともいわれる。三焦(組織・器官以外の領域・生体物質の通り道)を通して全身に分布 し 、人の成長や発育を促し、
46	「e. 気化作用」の3行目	～気の化生、気から血・津液・精などへの転化、汗や尿など排泄物の生成など	～ 気・血・津液・精などの化生 、汗や尿など排泄物の生成など
50	「a. 飲食物からの化生」の2行目	～心と肺の機能を受けて血に化生する。化生された～	～心と肺の 補助 を受けて血に化生する。化生された～
58	「A. 精と気」の1行目	～この2つは、相互転化の関係にあり、まとめて精気と呼称される場合がある。	～この2つは、 相互に密接な 関係にあり、まとめて精気と呼称される場合がある。
59	「B. 精と血」の2行目	～いう相互転化の関係にある。このような精と血の関係を～	～いう 相互に密接な 関係にある。このような精と血の関係を～
122～123	「(4) 腎陰虚」の「a」と「b」	<p>a. 陰液が不足する 陰液の不足により、相対的に陽が亢進するため～(中略)～汗として出されると盗汗となる。</p> <p>b. 腎陰が不足する 腎陰が不足すると精も不足するため～(中略)～耳鳴や難聴が起こる。</p>	<p>aとbの位置の入れ替え。b(旧刷のa)のタイトル変更。</p> <p>a. 腎陰が不足する 腎陰が不足すると精も不足するため～(中略)～耳鳴や難聴が起こる。</p> <p>b. 陰虚により虚熱が生じる 陰液の不足により、相対的に陽が亢進するため～(中略)～汗として出されると盗汗となる。</p>
256	「A. 部位」の1～2行目	橈骨茎状突起の頂点より内側の橈骨動脈拍動部を関、関より遠位部を～	橈骨 遠位 、茎状突起に 移行する膨隆部 の頂点より内側の橈骨動脈拍動部を関、関より遠位部を～